

第 11 回館長講座 ローマ郊外 オスティアの遺跡・ティヴォリの別荘遺跡

2017 年 10 月 7 日

今回はローマの外港だったオスティアの遺跡と、ティヴォリにある VILLA ADRIANA ハドリアヌスの別荘遺跡を歩きます。

オスティア・アンティカ

オスティアはテヴェレ河口にあるローマの外港都市。河口の意味であるオスティウム *ostium* に由来する。前 4 世紀後半、ローマによって創建された。前 3 世紀のポエニ戦争の時に要塞としての町並みが整えられ、その後、城壁の外へ居住地が拡大された。創建当時は軍事的性格が強かったが、ローマの外港としての重要性を増すにつれ商業都市化し、ハドリアヌス帝、アントニヌス帝の時代には繁栄の頂点に達し、人口は 5 万にも及び、多くの神殿に加えて大邸宅や浴場、大広場などが次々と建設された。それまでのドムス *domus* 形式（一戸建住宅）の住居は少なくなってインストラ *insula*（集合住宅）形式の 3~5 階建アパートが増える。4 世紀から衰退期に入り、6 世紀マラリアの流行によって廃墟と化した。

ローマのテルミニ駅から地下鉄 B 線でピラミッドまで 10 分、そこからリド線の電車に乗って 30 分。ポンペイとは異なり、古代末期にさびれ放棄された町だったから、建物や遺物の保存度は劣るとはいえ、ローマに比べて一般市民の家や商店などのありさまがはるかによくわかる。

薄い青は、かつてのテヴェレ川の流路。濃い青で蛇行しているのが現在の流路。

ここで使用した写真のほとんどは 1985 年当時のものであることとお断りします。

Roman Gate

リド線の駅から Via della Stazione (駅前通?) をとおって遺跡に至る入り口の所に Roman Gate がある。

Decumano Massimo

Decumano Massimo は遺跡の中のローマ門を起点に市街を東西に走るメインストリート。当時は町の重要な建物や商店、富裕な人々の邸宅などが並んでいた。

Baths of Neptune

最初にある見所はネプチューンのモザイク。オスティアが紹介されている本では必ず出てくる有名なモザイクだ。ここにはローマ時代には欠かせない大浴場があって、その中の床に描かれている。浴場のモザイクは保存状態がよく、海神ネプチューンの姿やイルカ、海の生物などが生き生きと描かれている。白黒のモザイクだったからだろうか、はがされずに残っている。

Barracks of Vigiles(消防士の家)

消防士の宿舎はネプチューンの浴場の裏手にある。40-50 AD の古いモザイクが残っている。以前は浴場の床だったところに道が作られている。「消防士の家」はハドリアヌス帝によるもの。

Forum of the Guilds (商業組合広場)

劇場に隣接して大きな柱廊が正方形の広場を取り巻き、広場の真ん中に神殿が立っていた。今は神殿は基壇だけ残り、柱廊部は床モザイクとわずかの柱しか残っていない。しかしこのモザイクはここにあった 70 からの卸問屋のいわば看板であった。地中海世界各地から商人がさまざまな特産品をもちこんでいた。モザイクの柄からその店の商品、産地が推測できる。商品は魚・穀物・野獣・船材、産地はガリア・カルタゴ・アレクサンドリア等々。ローマの主食小麦から、剣闘士と戦う猛獣まで。それらを取り扱う、商人達の組合がここにあった。フォルムは小さな小部屋に分かれ、それぞれの小部屋の前にはその組合が扱う商品がモザイクで描かれている。海を渡ってくるため、イルカや魚の絵が描かれたモザイク、立派な帆船を描いたモザイク。画の横に字が書かれているものもあり、バラエティ豊か。

Teatro Romano (古代劇場)

ローマの初代皇帝アウグストゥスの時代にローマの将軍アグリッパによって建てられた。その後、紀元 2 世紀に改修工事がされた。ローマでほぼ完全な状態で残る古代劇場はここだけという。

House of Diana(ダイアナ通)

最も標準的なインストラという形式の建物である。数階建の、多くの間口をもつ、いわば下駄履きアパートを豪華にしたようなもの。インストラには、1 階が多数の店舗となっているもの、ドムスといって、1 階の全フロアが富裕者の所有する住居となっているものがある。2 階より上は庶民のアパートになっている。ここはオスティアの中で一番保存状態が良い。当時は四階建てだったようだが、現在は二階までしか残っていない。

Themopolium (飲食店) いまの bar

イタリアの町では人の集まりそうな所、道の交差点近くなど、または歩いていてちょっとお茶でも、という気になったところなど、必ずと言ってよいほど **bar** がある。ある大学の先生とその奥様と一緒にローマを歩いていたときに、奥様が **bar** の表示に目をつけられて、「ローマにはバーがたくさんあるのね」と行って先生をちらっと見たのが印象的だった。もちろんそのバーはお酒を出す日本のバーのことで、この **bar** はお酒も飲めるがそれよりもカフェ・喫茶店に近い。ポンペイの遺跡にも **bar** はたくさんあった。

挽き臼のある粉ひき場

オリーブオイルかワイン貯蔵用甕の倉庫

Capitolium (カピトル神殿)

オスティアの中央通り（デクマーノ・マッシモ）の中枢部、基壇の上にさらに高くそびえる煉瓦造りの建物がカピトリウム（カピトル神殿）である。ローマのカピトリウム（カンピドリオ）にならって、ローマの最高神であるユピテル、その配偶者のユーノー、職人たちの守護神のミネルヴァの3神を合祀した神殿である。その正面にはオスティアのフォルム（フォロ）がある。フォロはかつては柱廊に囲まれていた。

Baths of the Forum フォロの浴場

このあたりは町の中心だったようで、公共施設がたくさんある。オスティア最大の浴場もある。

風呂場の中空レンガの並び。ここを見て漸くシチリアで掘った浴室の意味がわかった次第。浴室の壁には大理石が貼られていてその内側に中空レンガが並べられているところ。床も色大理石。

部屋を暖めるための焚き口。

壁の途中には断面がテーパになったレンガをつかったアーチの構造が見える。アーチの構造の発見と使用が大きな建物の建築を可能にしたし、その代表的なものがあとで紹介するローマのパンテオン。

中空レンガの並びが壁の上の方まで残るところには屋根がかけられて保護されている。

公衆便所

そしてお風呂のそばにはトイレがある。今の洋式トイレとほとんど変わらないが、この間隔はいかがだろうか。

Tavern of Alexander Helix

居酒屋 アレキサンダー・ヘリックス 床にはモザイクがある。

ティヴォリにある VILLA ADRIANA ハドリアヌスの別荘遺跡

次はティヴォリにあるハドリアヌスの別荘です。

ローマ皇帝ハドリアヌスは、ローマから東におよそ28キロメートル、ティヴォリ市からは南西に約4キロメートルの場所に、広大なヴィッラを118年から138年にかけて作った。このヴィッラは120ヘクタールを超える広大な敷地に、ギリシアからヘレニズム時代を経

てローマ時代にかけての古代地中海世界の建築文化を見せてくれている。

このヴィッラは若干の起伏部を含む緩やかな傾斜地に作られており、皇帝ハドリアヌスはこの地に彼の在位全期間をかけてヴィッラを建てた。彼は在位中に広大なローマ帝国内の巡察を行ったが、その合間をぬってこのヴィッラの建設に関わっていた。彼が巡察の合間にローマに戻った時、すなわち 118 年から 121 年の間と、125 年から 128 年の間の 2 つの時期に工事が大きく進んだ。

ここで使用した写真は大半が 1992 年当時のもの。

皇帝ハドリアヌス

ローマ帝国の全盛期、5 賢帝の 3 番目の皇帝。在位 117～138 年。軍人としてガリアやシリア、ギリシアなどを転戦し、人望が篤く、またギリシア文化にも通じた文化人としても知られていた。トラヤヌス急死の後、軍隊の支持によって後継者となり、元老院が承認して皇帝となった。彼は無理な領土拡張策は採らず、属州の経営と都市ローマの整備に努め、ローマ帝国の安定をもたらした。

映画『テルマエ・ロマエ』に登場し市村正親の演じた皇帝で、皇帝としての仕事はもっぱら残された広大な属州の維持につくし、彼自身が旺盛に帝国各地を巡回した。最も遠いブリタニアでは北方のケルト人に対して「ハドリアヌスの長城」と言われる 118 キロに及ぶ防壁を築いた。次の皇帝として元老院議員のアントニヌス=ピウスを指名して病死した。ハドリアヌスは歴代のローマ皇帝の中でも高い評価を受けている一人である。

ハドリアヌスはローマの皇帝の中でひげを生やした最初の皇帝だそうです。これはルーブル美術館にあるというハドリアヌスのブロンズ像で、これはカタログから撮った写真だが、先日パリに行ったのでついでに展示されている実物の写真を撮ってくることにした。

古代ローマの部屋にたどり着き、髯のある皇帝の彫像を探した。まずマルクス・アウレリウスの像を見つけました。この皇帝は哲人皇帝、哲学者風の皇帝ともいわれています。

しかしどうしても最初にひげを生やした皇帝のハドリアヌス像が見つからない。そこで室内に座っていた館員の女性に所在を尋ねたところ、二人がかりで探してくれた。それがこれで、確かにエンペラーハドリアヌスとあるが、下の方に手書きでエルサレムのイスラエル博物館に展示中とあった。でも日付は 20.12.15 au 20.06.16。

5 賢帝時代 96 年-180 年

ローマの皇帝はアウグストゥス以来 B.C.27-A.D.476 のあいだに 82 人で、アウグストゥスーティベリウスーカリグラークラウディウスーネロー と続いて、12 代目がネルウァ。以下五賢帝の簡単な紹介。

- ① ネルウァ 96-98 トラヤヌスを後継者に指名・公共広場「ネルウァのフォルム」建設。
- ② トラヤヌス 98-117 帝国の版図を最大にした・トラヤヌス広場・トラヤヌスの記念柱の建設。

- ② ハドリアヌス 117-138 拡大しすぎた東方領土の放棄・12年間にわたる属州視察・ハドリアヌスの長城の建設。
- ④アントニヌス・ピウス 138-161 外交で紛争を解決・法典の整備・真のパクス・ロマーナ(ローマの平和)の実現。
- ⑤マルクス・アウレリウス 161-180 史上初の共同統治(ルキウス・ウェルスと)・善政・哲人皇帝・「自省録」。

ヴィラ・アドリアーナ

ヴィラの復元図。VILLA HADRIANI とあるが、イタリア語ではHは発音しない。だから「ホテル」も「オテル」。

この地図の下の方が北。構内駐車場の近くには遺跡の縮尺模型が展示されている。

カプノス セラピス神殿

南の端から。カプノスは、エジプトのアレクサンドリアから数十キロ離れた町で、そのセラピス神殿前にはナイルから運河が引かれ、その両岸には豪華な建物が軒を連ねていたと伝えられている。ハドリアヌス帝は、130年にナイル川で溺死した最愛の美少年アンティノウスを偲びつつ、これをつくったという。映画の「テルマエ・ロマエ」では、ルシウスのアイデアとされていたように思う。

ほぼ南北に長い池の北端には柱が並び、それらの支えるアーチの下では彫像が水面を見おろしている。

倉庫・商店 Pretorio

3層に分かれ、狭いアーチで仕切られた一群の建物は当初は兵舎と考えられて、プレトリーオ(幕営)と呼ばれたが、現在では貯蔵庫だったとされている。

大浴場・小浴場

大浴場と小浴場が並び、西側から両方に入る大玄関がついていた。大浴場は男湯で、小浴場は女湯だったとも考えられている。大小さまざまな、矩形、八角形、円形などの平面形の部屋が配置されている。

半円形の壁で囲まれた浴槽や見事なヴォールトを見ることができる。

「夏の食事室」(「3つのエクセドラを持つ建物」)

三方をエクセドラ(半円スペース)に囲まれた広間がある。その装飾はひじょうに豪華で、大理石の貼られた床をもち、壁際には大理石柱がめぐらされていた。

「R1979」は1979年に修復されたことを示している。こんな小さいところにもちゃんとその旨の表示があった。

ポイキレ

「海の劇場」の西側に中央部に幅 26 メートル、長さ 105.5 メートル、深さ 1.5 メートルのプールを備える幅 97 メートル、長さ 232 メートルの広さの庭園があり、その周囲は列柱廊で囲まれていて「ポイキレ」と称されている。庭園の北側壁ではその南北両側に沿って列柱廊が延びている。

島のヴィッラ 海の劇場 Villa dell' Isola、 Teatro Marittimo

この写真はその模型。円形の運河の中にある円形の島（直径約 40m）の建物である。運河の外側を円形列柱が取り囲み、小島との間に 2 本の橋が架かっている。小島には半円形のアトリウム、図書館、浴室、食堂がある。これらは全くユニークな建物で、個人的な住居であった。実際にハドリアヌス帝は一人になるために、意図的に橋を取り外して中央の島にある部屋に籠ったとも伝えられている。

ドーリス式の角柱の間 Sala dei Pilastri Dorici

謁見や執務が行われたと思われるドーリス式角柱の広間。

黄金広場 Piazza d'Oro

この広場はかつては 60 本の柱で囲まれ、奥には 8 角形の部屋があった。矩形と半円形が交互に並ぶ平面をなし、ドームが架かる玄関ホールを入ると、四周に列柱廊を巡らした中庭に出ます。列柱廊の床はさまざまな色の大理石を組み合わせた色彩鮮やかな幾何学模様の仕上げとなっている。

ヴィーナスの神殿

ヴィッラの北の端近くにヴィーナスにささげられたといわれる神殿の 3 本の円柱が残る。屋外の雨ざらしのヴィーナス像と屋内の保存されているヴィーナス像。屋外のものはレプリカだろうか。

ローマにあるハドリアヌスの建築

パンテオンとハドリアヌス帝廟（サンタンジェロ城 聖天使城）

パンテオン

ハドリアヌス帝が自ら設計し、118～135 年に再建。正面の列柱玄関には 8 本のコリント柱が三角形の破風を支えて一見普通の神殿のような外観だが、本体は円形神殿で、差渡し 43.8 メートルものドームの規模は 19 世紀まで最大だった。このドームの大きさは、モルタルや基礎の強度の強化、コンクリートの骨材の段階的な変更と、ドームの中に空洞の部分を作ることによる軽量化などで可能となった。

内部には 7 つのニッチ（壁龕）が設置され、天井には丸窓があげられている。雨のときにはここから雨が落ちてくる。内部にはラファエロ(1483-1520)、イタリア統一の立役者で初代イタリア国王のヴィットリオ・エマヌエーレ 2 世(1820-1878)、第 2 代イタリア国王ウンベルト 1 世(1844-1900)の墓がある。

ハドリアヌス帝廟（サンタンジェロ城 聖天使城）

テヴェレ川を渡った、前 1 世紀からローマで流行したトウムルス（墳墓）型の墓で、直接的なモデルはアウグストゥス廟と考えられる。84 メートル四方の正方形プランで 10 メートル高の基壇の上に、直径 64 メートル、高さ 21 メートルの円塔が立ち上がり、屋上には土が載せられて糸杉が植えられていた。139 年完成し、ハドリアヌス帝以降ゲタ(209-211)までの数人の皇帝と家族が葬られている。

サンタンジェロ城の橋の下のテヴェレ川は、映画「ローマの休日」で、ヘップバーンが扮する王女様が立ち回りを演じたところ。

現在は内部は軍事博物館になっており、ハドリアヌス時代の建築の様子も見られる。